

No	感染症(PT)	出典	概要
297	レプトスピラ症	ProMED-mail20070821.2725	香港Centre for Health Protectionはレプトスピラ症の症例2例(46才および52才男性)を確認し、2007年の合計は5例となった。52才男性は2007年7月20日に発症したが、2007年7月初旬に中国本土へ旅行していた。
298	レプトスピラ症	Vet Microbiol 2007; 121: 144-149	ブラジル南部のペロタスにおいて、屠殺されたヒツジから10頭分の腎臓サンプルと44頭分の血液サンプルを入手し、菌の分離を行った。16S rRNA遺伝子の塩基配列解析及び血清診断法により、血清型がAutumnalisのLeptospira noguchiiと同定された分離株が1株得られた。これは、ヒツジからLeptospira noguchiiが分離された最初の報告である。
299	レンサ球菌感染	Dtsch Med Wochenschr 2007; 132: 1098-1100	頭痛と発熱のため入院し、髄膜炎症状を示した42歳男性の脳脊髄液および血液培養からグラム陽性菌が検出され、生化学的方法によりStreptococcus suisと同定された。アンピシリンとセフトリアキソンで治療された。男性は肉屋で、手や前腕に切り傷を負うことがよくあった。S. suisによる感染はヨーロッパでは稀であるが、ブタへの職業的暴露がある場合には考慮すべきである。
300	レンサ球菌感染	http://english.people.com.cn/90001/90782/6224337.html	中国南部のShenzhen市の49歳男性がブタレンサ球菌感染と診断された。この患者は治療中であり、状態は安定しているとのことである。
301	レンサ球菌感染	Jpn J Infect Dis 2006; 59: 397-399	1994-2006年の日本におけるStreptococcus suis感染の7症例についてまとめた。全例がブタ暴露歴があり、うち5例は暴露時に手に傷があった。5例は髄膜炎症状、3例は敗血症症状を呈し、1例は突然死した。分離されたS. suisは全てLancefieldグループDおよび血清型2に属し、ペニシリンG、アンピシリン、セフトキシムおよびシプロフロキサシンに感受性があった。しかし、6例はエリスロマイシンとクリンダマイシンに抵抗性を示し、4例はミノサイクリンにも抵抗性を示した。
302	レンサ球菌感染	pigprogress.net 2007年2月21日	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。ニューヨークの健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。患者の農場のブタからもS. suisが確認された。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。
303	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070223.0668	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。ニューヨークの健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。患者の農場のブタからもS. suisが確認された。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。
304	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070517.1573	香港保健局の健康保護センターは、79歳の女性がブタ連鎖球菌に感染したことを確認した。女性は2007年5月7日に発熱し、2007年5月11日に入院したが、重体である。この患者に旅行歴はなく、家族は全く症状はなかった。この症例は、2007年における最初のブタ連鎖球菌感染報告例である。
305	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070527.1707	2007年5月26日付けSouth China Morning Postによると、香港の肉販売業アルバイトの54歳男性がこの地域で1ヶ月以内で3人目のブタレンサ球菌犠牲者となった。中国本土では2005年アウトブレイク以降、報告例はない。香港では2006年に8例報告されている。
306	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070726.2411	2007年7月25日、地方当局は中国南部のShenzhen市の49歳男性がブタレンサ球菌感染と診断されたと発表した。感染経路は不明であるが、当局は肉製品が疑わしいとしている。同市のブタでは病気は流行していない。2005年にはSichuan省では同伝染病で37人が死亡し、250人以上が感染した。
307	レンサ球菌感染	Thanh Nien News 2007年7月19日	2007年初めから現在まで、ベトナム熱帯伝染病研究所には21名がブタレンサ球菌感染で入院した。21名中2名が死亡し、他の2名が危篤状態である。

No	感染症(PT)	出典	概要
308	レンサ球菌感染	Xinhuanet 7月24日	ベトナムではブタレンサ球菌に42人が感染し、2人が死亡したため、早急な研究と対策が必要であると農業大臣が発言した。
309	灰白髄炎	ProMED-mail20061003.2830	インドではポリオが流行しており、2006年にこれまで352例が報告された。Uttar Pradeshだけで312例が報告され、Biharでは20例である。ポリオによる死亡は23例となった。
310	感染	ABC Newsletter 2008年1月11日	血液安全・安定供給諮問委員会は、米国保健社会福祉省事務局に対し、安全で効果的な輸血用血液製剤の病原体低減技術(不活化)の早急な開発を優先して進め、開発され次第実施するよう勧告した。病原体低減の効果と安全性を示すエビデンスの蓄積は、今後蔓延する可能性のある感染症に対し広く適応できるセーフガードとして、この技術の導入を保証するという決議を採択した。
311	感染	All Africa.com 2007年2月27日	コートジボワールの保健当局は北部の村で31名が死亡し、他に少なくとも73名が罹患した急性疾患を調査している。2006年12月第3週にDiobala村で人々は頭痛、高熱、頸部および胸痛、呼吸症状を伴う疾患に罹った。調査の結果、10月の初めに村の動物が病気に罹り始め、家禽の90%および約500頭のヤギとヒツジが死亡し、村人は病気の動物を食べたことが明らかとなった。
312	感染	CDC/MMWR 2008; 57(Early Release): 1-3	2007年10月29日、米国Minnesota南東部のブタ処理施設の従業員における原因不明の神経疾患についての報告があり、州保健局と米国CDCが調査中である。2008年1月28日現在、進行性炎症性神経障害症例は12例で、症状はブタ頭部処理に関わったヒトで発生した。原因は特定されていない。
313	感染	FDA/CBER 2007年7月12日	2007年6月19日付けの、ヒト細胞、組織、ならびに細胞および組織由来製品(HCT/Ps)、ドナースクリーニングと検査、ならびに関連するラベリングの最終規則に関するQ&A、FDAがこの最終規則を公表したのはなぜか、最終規則で変化した点は何かまたドナー適格最終規則とどのように異なるか、胎児ドナーのスクリーニングと検査は必要か、ドナーの検体採取時期はいつか、等の質問とそれに対する回答。
314	感染	J Hosp Infect 2007; 65: 15-23	outbreak databaseとPubMed検索、および関連出版物の参考文献検索により、1990年以降の汚染された物質に関連した院内感染(128報、患者2250名)について調査した。血液製剤およびヘパリン生理食塩液の汚染が最も報告数が多かった。病原体は血液製剤ではA型肝炎ウイルス、Yersinia enterocolitica、セラチアが、その他ではBurkholderia cepaciaやエンテロバクターが多かった。64のアウトブレイクでmulti-doseバイアルが使用されていた。
315	感染	ProMED-mail20061013.2937	インドネシアで2006年10月6日までに下痢および嘔吐を引き起こす疾患に238例が罹患し、5例が死亡した。現在DPT Limbangan Community Health Centerで患者124例が治療中である。これら症例は水源に関連している可能性がある。E. Coliが疑われるが、原因は確認されていない。
316	感染	ProMED-mail20061228.3637	インドネシア保健当局はジャカルタでここ2ヶ月間に高熱が特徴の原因不明の疾患により死亡した22例を調査している。検体はCDCセンターに送られ、検査中である。死亡例の大部分は40歳以上で、中部ジャカルタのSt.Carolus付近の中流階級住民で、2006年10月から2006年11月27日にかけて報告された。中毒の可能性もある。
317	感染	ProMED-mail20070114.0188	アリゾナでバレー熱(コクシジオイデス症)が流行している。2005年に比べ2006年は56%増加した。保健当局によると5493例が診断されたが、未報告症例数は何千例もあるとのことである。増加の原因は確定されていないが、2005年の湿った冬に続き、2006年には乾燥した月が多かったことによると指摘されている。
318	感染	ProMED-mail20070118.0230	台湾ではヒストプラズマ症はまれであり、この10年間で2~3の輸入症例が報告されているだけである。台湾で初めての固有の伝染性ヒストプラズマ症例を報告する。2005年11月に衰弱のため救急部に送られてきた78歳のリュウマチ様関節炎患者で、メソトレキセート誘起性血小板減少症と仮に診断され入院した。骨髓検査の結果、ヒストプラズマ症が疑われた。培養後、PCRアッセイによりHistoplasma capsulatumと同定された。

No	感染症(PT)	出典	概要
319	感染	ProMED-mail20070217.0597	トリインフルエンザの専門家が北バングラデシュでの3名の原因不明の死亡を調査するチームに参加しているとBSS通信社が2007年2月14日に報告した。バングラデシュでは今までトリインフルエンザの症例は報告されていない。死亡例の内、2名は夫婦である。他に2名が重症で入院中である。全員同じ村の出身である。
320	感染	ProMED-mail20070419.1284 PressTV 2007年4月18日	イラン当局によると、イラン南東部で7人が死亡した疾患の原因は依然として不明である。症状は発熱、咽頭痛、リンパ腺の炎症、全身痛であるが、コレラやH5N1トリインフルエンザではないとしている。
321	感染	ProMED-mail20070521.1627 Caboodle.hu 2007年5月21日	ハンガリーで原因不明の疾患に1家族15人が罹り、2007年5月19日にその内1人が死亡した。死亡したのはKecskemetの49歳男性で、家族のうち数名は軍隊に入っており、1名は外国にいた。高熱とインフルエンザ症状を呈し、入院した。この家族は病院で隔離されている。現在、病気を同定するための検査が行われている。
322	感染	ProMED-mail20070529.1735	中国で青耳病として知られる原因不明の疾患および口蹄疫によりブタが大量に死亡しており、豚肉の価格が高騰している。2006年半ばに1例目が発見されたブタ高熱病は、豚生殖器呼吸器症候群、古典的豚コレラおよび豚サーコウイルスの混合感染が原因とされている。最近2、3年の間に、ブタ高熱病と呼ばれる同様の感染症が中国南部でも報告されている。微生物学者による詳細調査が行われる予定である。
323	感染	ProMED-mail20070709.2189	中国北東部で2007年6月下旬以来、ギランバレー症候群が30症例報告されている。患者は全員Jilin省ChangchunのShuangyang地区の出身で、状態は安定している。この病気の正確な原因は不明であるが、専門家によると呼吸器感染または胃インフルエンザが引き金になる可能性があるとのことである。
324	感染	ProMED-mail20070909.2978	ブラジルのMarajo島で、原因不明の疾病により10日以内に子供4人が死亡したが、4歳の少女が5人目の犠牲者となった。先週死亡した小児の姉妹で、家族によると、高熱、嘔吐、痙攣といったマラリアまたは髄膜炎を示唆する症状を示した。予備検査では診断が確定しなかった。疾患を媒介する昆虫を探索中である。
325	感染	ProMED-mail20071003.3271	パナマ地域当局はNgobe-BugleのNurum地区で原因不明の病気で42人が死亡したと報告した。死亡例の大部分は小児である。病気は鼻水、咳、発熱から始まり、致死的な場合は気管支肺炎様の症状を呈する。
326	感染	ProMED-mail20071009.3318 The Telegraph 2007年10月7日	国境付近の無医地区で原因不明の病気により、7人が死亡したため、インドManipurは非常事態となった。2007年10月1-6日に国境に沿った村で病気は急速に広がったため、Morehに医療団が派遣された。患者は高熱、胃痛、嘔吐を訴え、犠牲者の幾人かは死ぬ前に痙攣と発作を起こした。原因はまだ究明されていない。
327	感染	The Himalayan TIMES 2007年3月20日	ネパール保健省は2007年3月18日に不可解な疾患により死亡した32歳の女性の報告を受け、3月19日に病院から医療・検査チームを派遣した。女性は貧血と腎不全も呈していた。村民数百人が下痢、手足の腫れを訴えている。毒素を持った細菌感染の可能性が。現在、検査中である。
328	感染	The National (http://www.thenational.com.pg/021907/nation1.htm)	パプアニューギニアのSouthern Highlands地方で女性3名が汚染された豚肉を食べて死亡した。まだ同定されていない疾病のアウトブレイクで約1000頭のブタが死亡している。ブタは首の腫れ、インフルエンザ様症状、発熱を呈し、体の一部が壊死し、数日で死亡する。他の動物種も同様の症状を呈した後、死亡した。
329	感染	Transfusion 2007; 47: 2338-2347	2007年3月29-30日、カナダのトロントで行われた病原体不活化(PI)技術に関するコンセンサス会議の報告である。近年の検査技術の発達により、現状の輸血感染症リスクは非常に低く、PIを直ちに導入する事は推奨しない。しかし新興感染症のリスクは未知数であり、PIは予防手段として重要である。広範囲の病原体を不活化できる安全な方法が確立されれば実施すべきである。

No	感染症(PT)	出典	概要
330	感染	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.2): 31	日本赤十字社(JRC)が全国的ヘモビジランス体制を導入してから14年が経過した。報告された輸血副作用症例数は年間約2000例で、過去3年間はほぼ一定である。非溶血性輸血副作用は報告症例の約80%を占め、輸血関連急性肺障害などが含まれる。輸血感染症の報告数は年々減少している。JRCのヘモビジランスは病院の自発報告に基づいており、病院と血液センターとの協力が不可欠である。
331	感染	第51回日本医真菌学会総会 2007年11月9-10日	中国で鼻周囲の肉芽腫病変を呈した36歳男性の生検組織から分離された菌が、形態学と分子生物学的検査でConidiobolus coronatusと同定された。Itraconazoleを12ヶ月間使い、完全に治癒した。患者は同真菌によるEntomophthoromycosisであった。中国で初めての報告例である。
332	感染	日本医真菌学会雑誌 2007; 48(Suppl 1): 83 第51回 日本医真菌学会総会	Conidiobolus coronatusによるEntomophthoromycosisの中国での初めての症例報告である。36歳男性で、10ヶ月前より鼻閉が生じ、7ヶ月前より鼻背部が発赤・腫脹し、診察時、鼻全体より頬部、上口唇にかけて高度の腫脹と変形を認めた。病理検査で慢性好酸性肉芽腫病変がみられ、rDNAの塩基配列分析の結果Conidiobolus coronatusと一致した。Itraconazole 12ヶ月間投与により完全に治癒した。
333	ウイルス感染	ABC News Online 2006年11月12日 ABC News Online 2006年11月15日	オーストラリアの養護施設で致死的な呼吸器疾患が発生し、2006年11月12日現在、高齢者4例が死亡し、43例が未だ罹患している。施設の患者と職員は抗ウイルス治療を受けた。11月15日現在、5例が死亡し、52例が罹患している。
334	ウイルス感染	Arch Virol 2007; 152: 1209-1213	中国で分離されたブタの脳筋筋炎ウイルス(EMCV)、BJC3およびHB1の完全な遺伝子配列を決定したところ、各々、7746および7735ヌクレオチドであった。他のEMCV株の遺伝子配列と比較すると、両株ともBEL-2887A/91、EMCV-RおよびPV21と高い相同性を示した(92.5-99.6%)。また、他のEMCV株と比べ、両株のリーダー蛋白で2つのアミノ酸変異およびBJC3のVP1で1つのアミノ酸置換が見られた。系統発生的分析の結果、両株ともサブグループEMCV-30Iに属していた。
335	ウイルス感染	Aust Vet J 2007; 85: 134-140	Menangleウイルスに自然感染した雌ブタから生まれた死産の子ブタおよび胎仔の病理学的所見を得るため、1997年6-9月の生殖病アウトブレイク中にNew South Walesの養豚場から入手した、死産した子ブタ49頭、ミイラ化または半ミイラ化した周産期胎仔35頭、中絶した胎仔6頭を剖検した。関節彎曲、頭蓋顔面および脊椎変形、肺形成不全、脳および脊髄変性がしばしば見られた。Menangleウイルスの子宮内感染は重度の骨格および神経学的奇形と関連する。
336	ウイルス感染	Canadian Blood Services 2006年12月18日	2006年12月18日付で、カナダ血液サービスは供血者が供血前に記入する供血記録の間診事項に一部修正を加える。カナダ保健局の指示により、ヒト以外の霊長類(サル、ヒヒ、チンパンジー、アカゲザル、あるいはその血液や唾液)との職業的接触に関する質問を追加した。サル泡沫状ウイルス(SFV)に関する認可された標準検査法がないため、供血者がこの質問に「はい」と答えた場合は無期限に供血延期となる。研究所で霊長類を扱う人、獣医師、動物園職員などが延期対象となるだろう。
337	ウイルス感染	CDC Press Release 2007年8月22日	米国疾病対策予防センター(CDC)と協力施設の科学者が、よく見られるアフリカフルーツコウモリ的一种において、マールブルグウイルス感染を特定することに初めて成功した。マールブルグウイルスは、ヒトや霊長類に重篤で死に至ることも多い出血熱を引き起こす。コウモリがマールブルグウイルスを保有することが疑われていたが、証拠はなかった。この研究結果はPLoS ONEに掲載された。この研究は、マールブルグウイルスの伝播についてより理解し、ヒトにおける感染拡大を予防・減少させる助力になると思われる。
338	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(45): 1181-1184	米国4州における2006-2007年のアデノウイルス血清型14(Ad14)に関連した急性呼吸器疾患に関する報告である。Ad14は稀にしか報告されないが、全ての年齢層の患者に重症で致死的な呼吸器疾患を起こす可能性がある。2006年5月にニューヨーク州で生後12日目の乳児がAd14感染により死亡し、07年3-6月にオレゴン州、ワシントン州およびテキサス州で計140名の感染患者が確認された。これらの患者から新規のAd14変異種が分離された。
339	ウイルス感染	EID 2006; 12(12)	南アフリカで2006年初めにコウモリに引っかけられた後、狂犬病様の疾患で死亡した77歳男性から、Duvnhageウイルスが分離された。その地点から約80km離れたところで、36年前にそのウイルスによるヒト感染が1例だけ報告されていた。
340	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1084-1086	成人におけるコクサッキーウイルスA-16(CVA-16)による致死性肺炎の、初めての症例報告である。本患者は心筋炎も左心室機能不全も示さなかった。患者から分離されたCVA-16株は標準株とはヌクレオチド相同性が低かったが(78.6%)、中国で1999-2004年に循環し、手足口病またはエンテロウイルス感染疑いの小児の大便中から分離された株(GenBank登録番号AY821798)と高いヌクレオチド相同性を示した(98%)。新規の、強毒性のCVA-16が出現しうることが示唆された。

No	感染症(PT)	出典	概要
341	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 165-167	中国Hunan省で2005年11月3日から2006年4月3日に下部呼吸器感染で入院した10歳以下の小児の鼻咽腔吸引物を調べたところ、252検体中21例(8.3%)でヒトボカウイルス(HBoV)が検出された。VP1遺伝子の系統発生的分析の結果、世界中のHBoVの単一の遺伝的系統が示された。
342	ウイルス感染	Eurosurveillance Weekly Release 2007; 12(4)	ドイツでは牛痘はウシにおいてはここ何年か診断されていないが、ネコで感染が増加している。最近、動物飼育員の22歳の女性とネコを飼っている25歳の女性が牛痘と確定診断されたが、両者とも牛痘で死んだネコを世話していた。ここ2年間でドイツでは4名の患者が牛痘ウイルス陽性と診断され、ヒトの牛痘感染が増加している。ドイツでは1970年代に天然痘ワクチン接種が中止されたため、牛痘ウイルスに対する免疫を持つヒトの割合が小さくなったことを反映しているかもしれない。
343	ウイルス感染	Herald Sun online 2007年4月22日	オーストラリアVictoriaで、一人のドナーから臓器移植を受けた3例が死亡した。当初、原因不明であったが、コロンビア大学の専門家の協力を得て、未知のウイルスが原因であることが明らかとなった。このウイルスは黄熱病、エボラおよびリッサ性脈絡髄膜炎の原因となるげっ歯類媒介アレナウイルス科に属していた。3例の移植患者すべての多数の検体からこのウイルスが検出された。臓器移植により伝播したと思われる。
344	ウイルス感染	IRIN 2007年9月25日	コンゴ共和国Likoula北部でサル痘が流行している。国立公衆衛生研究所の話では、62名が迅速検査で確定しているが、村民からの証言によると少なくとも150名が感染しているとのことである。患者の大部分は15歳以下の難民である。これは熱帯雨林諸国で見られる稀なウイルス性疾患であり、動物、特にサルの肉を処理する際の接触によって起こる。
345	ウイルス感染	J Clin Microbiol 2007; 45: 3008-3014	ヨーロッパでの出血熱は主にPuumalaウイルス(PUUV)またはDobravaウイルス感染による。ドイツ南東部Lower Bavariaでハンタウイルス感染患者31名について、酵素免疫測定法、免疫蛍光法、免疫プロット法による診断を行った。標準的検査による抗体のPUUV特異的タイピングができない症例が2、3あった。3名の患者の急性期血清から得たPUUV RNAをRT-PCRを用いて増幅したところ、同地域で捕獲したハタネズミから得たウイルス配列と非常に近縁であることが明らかとなった。
346	ウイルス感染	J Med Virol 2007; 79: 393-400	コンゴ民主共和国において2000-2001年に急性弛緩性麻痺の小児138名から分離された186株についてタイピングを行った。89名の患者からの分離株は非ポリオ性エンテロウイルス型で、17名の患者は1つ以上のエンテロウイルスまたはアデノウイルスに感染していた。また、非典型的なエンテロウイルス分離株が高頻度に見られた。6名の患者からの分離株には新規のエンテロウイルス型が含まれ、HEV-Bに属するEV-93およびHEV-Dに属するEV-94と名づけられた。
347	ウイルス感染	J Med Virol 2008; 80: 365-371	定期的に輸血を受けるサラセミア患者で、Torque Teno virus (TTV)の有無を調べたところ、2-20歳の患者の約10%(118名中12名)がTTV陰性であった。フェリチン、ASTおよびALT値はTTV陽性群より陰性群の方が低かった。TTV-HCV共感染群ではフェリチンおよびALT値がTTV単独感染群より高かった。輸血による高頻度かつ継続的なTTV感染はサラセミア患者における肝機能障害と相関することが示唆された。
348	ウイルス感染	PLoS ONE 2007; 8: e764	マールブルグウイルスはヒトおよび霊長類において高致死率の出血熱アウトブレイクの原因となる。ガボンおよびコンゴ共和国の5つの地区から収集された10種1138匹のコウモリを調べたところ、ウイルス特異的RNAおよびIgG抗体により、フルーツコウモリの1種であるRousettus aegyptiacusにおいてのみマールブルグウイルス感染が確認された。非霊長類動物で自然感染が同定された初めての報告であり、アフリカのこの地域に同ウイルスが存在することを示す初の報告である。
349	ウイルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: e64	急性呼吸器感染症に罹った患者からの呼吸分泌物中に存在する新規のポリオーマウイルスを同定し、WUウイルスと名付けた。WUウイルス遺伝子は5229bpで、Polyomaviridaeファミリーの特徴を持つ。系統発生的分析から、このWUウイルスは、既知の全てのポリオーマウイルスとは異なっていることが明白となった。オーストラリア及び米国の急性呼吸器感染症患者2135例中43例からWUウイルスが検出された。
350	ウイルス感染	PRNewswire 2007年4月21日	コロンビア大学Mailman School of Public HealthのGreene感染症研究所の科学者らによって、オーストラリアのVictoriaで、一人のドナーから臓器移植を受けた3例が死亡した原因である新規のウイルスが発見された。このウイルスはリッサ性脈絡髄膜炎ウイルスと近縁であったが、既存のスクリーニング法では検出されなかった。迅速シーケンシング技術とGreene研究所によって開発されたパイオインフォマティクスアルゴリズムによって解明された。
351	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci 2007; 104: 11424-11429	マレーシアMelakaで高熱と急性呼吸器疾患に罹っていた39歳男性から未知のreovirusが分離され、Melaka virusと名づけられた。患者の家族も発症したが、彼らは発症前にコウモリと接触していた。遺伝子配列分析により、同ウイルスは同国Tioman島のフルーツコウモリから分離されたPulauウイルスと近縁であることが示された。同島住民は109例中14例(13%)が両ウイルスに陽性であった。Orthoreovirusがヒトの急性呼吸器疾患と関係があることが初めて示された。

No	感染症(PT)	出典	概要
352	ウイルス感染	ProMED-mail 20070702.2108	2007年6月22日、ミクロネシアのヤップ保健局で集められた血液検体をCDCの研究所で検査した結果、ヤップでの最近の疾病はジカウイルスが原因らしいことが示された。ヤップのアウトブレイクは2007年4月に始まり、5月後半にピークに達し、現在も続いている。症状は斑点状丘疹、結膜炎、関節痛など軽症で、4-7日間続く。6月29日現在、42例がPCRとIgM分析によってジカウイルス感染と確定された。死亡例はない。
353	ウイルス感染	ProMED-mail 20061112.3249 ABC News Online 2006年11月15日	オーストラリアのCanberra養護施設で致死的な呼吸器疾患が発生したが、この施設は保健当局とともに、この原因不明の疾患の制圧を行っている。施設の患者と職員は抗ウイルス治療を受けた。11月15日現在、5例が死亡し、52例が罹患している。
354	ウイルス感染	ProMED-mail 20070113..0179	中国Jiangsu省で流行性出血熱の患者2例が報告された。患者は治療のためNanjingの病院に入院中である。このタイプの感染症は冬と春毎に発生し、そのウイルスはげっ歯類によって広がるので、住民はげっ歯類に対する対策をとらなければならない。
355	ウイルス感染	ProMED-mail 20070216.0586	西オーストラリア保健当局は、東Kimberleyと東Pilbara地区で蚊が媒介するウイルスの証拠が見つかったとして、西オーストラリア北部に居住あるいは滞在中の人々に、蚊に注意するよう呼びかけた。西オーストラリア大学が実施するサーベイランスプログラムによって、今年の雨期に初めてクンジンウイルスが確認された。クンジンウイルスは、蚊によって媒介されるウイルスで、マレーバレー脳炎(MVE)ウイルスと同じグループに属する。
356	ウイルス感染	ProMED-mail 20070216.0596	ペルーの地方保健局長官は、Cuzco県La Convencion郡で黄熱による死亡例3例が発生したと報告した。Cuzcoの保健当局によると、このうち1例はMatoriato地区で発生したとのことである。当局は、La Convencion郡に向かう人全員を対象とした黄熱のワクチン接種キャンペーンを含む危機管理計画の策定を決定した。
357	ウイルス感染	ProMED-mail 20070423.1325	オーストラリアのVictoriaで、一人のドナーから臓器移植を受けた3例が死亡したが、未知のウイルスが原因であった。このウイルスはリンパ性脈絡髄膜炎ウイルスと近縁であったが、既存のスクリーニング法では検出されなかった。454 Life Sciencesによって確立された迅速シーケンシング技術とGreene Laboratoryによって開発されたバイオインフォマティクスアルゴリズムによって発見された。
358	ウイルス感染	ProMED-mail 20070930.3228	オーストラリアQueensland州で蚊が異常発生し、ロスリバーウイルスが拡大している。通常は北部の熱帯地域で優勢であるが、Brisbane南部における過去4週間の感染者数は、昨年(2006年)同時期のほぼ450%である。Queensland保健局の発表によると、過去4週間に報告された感染者数は93例であった。
359	ウイルス感染	Res Vet Sci 2007; 83: 130-132	メキシコシティの田舎の裏庭で飼育されているブタにおけるブタサーコウイルス2型(PCV2)の血清有病率を調べるため、7地区の108の小規模家族農場から得られたブタ血清検体695例を検査した。108農場中106(98.14%)で少なくとも1例の陽性検体が検出された。PCV2抗体に対する抗体価は、軽度136例、中等度264例、高度248例で、抗体陰性は53検体(7.63%)のみであった。メキシコシティの裏庭ブタでPCV2は広汎に分布していることが明らかとなった。
360	ウイルス感染	Transfusion 2007; 47: 162-170	輸血により、サルfoamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。感染ザルの血液を非感染ザルに輸血したところ、輸血されたザルの血液から8週後にプロウイルスDNAが検出され、その1週間後にセロコンバージョンが起こった。血しょう中に検出限界下限のSFVが検出された。また感染29週目に唾液中にSFVが検出された。輸血によりSFVが感染することが初めて示された。
361	ウイルス感染	Transfusion 2007; 47: 1972-1983	供血者血漿検体中のサイトメガロウイルス(CMV) DNA陽性率を検討した。過去にCMV血清陰性で初めて抗CMV IgG陽性を示した供血者82名の血漿検体44%が反復的にCMV DNA陽性であった。1年以上血清反応陽性または血清反応陰性供血者はいずれもCMV DNA陰性であった。白血球除去の実施にもかかわらず、新規血清反応陽性供血者のウイルス血症は輸血伝播性CMVの残存リスクの重要な原因と考えられる。
362	ウイルス感染	Virus Res 2007; 126: 256-261	1988-2003年の韓国における古典的ブタ高熱病(CSF)アウトブレイクで得られたCSFウイルスの分離体24株についてE2遺伝子の一部(190ヌクレオチド)を解析し、他の国で報告されているCSFウイルスと比較した。系統遺伝学的分析の結果、1988-1999年の分離体はサブグループ3.2に属し、他の国とは異なる独立したクレードを形成したが、2002-2003年の分離体は中国と台湾で報告されたCSFウイルスと近い関係にある2.1に属し、近隣国からの新しい株によるものと考えられた。

No	感染症(PT)	出典	概要
363	ウイルス感染	WHO/EPR 2007年8月3日	ウガンダで29歳男性がマールブルグ出血熱と確定診断された。この男性は2007年7月4日に発症し、7月7日に入院し、7月14日に入院した。この男性は6月27日に同様の症状を発症し、入院した職場の同僚の介護を行っていた。調査の結果、この職場では他に感染疑いが1例確認され、また6月中旬に病氣となり、その後、回復した人が2例いた。
364	ウイルス感染	Wkly Epidemiol Rec 2007; 82: 169-178	2006年12月21日にケニアで10例の患者がリフトバレー熱(RVF)と確定診断され、WHOは翌日、警告を発した。ケニアでは2006年11月30日～2007年3月12日に死亡155例を含む684例が、ソマリアでは2006年12月19日～2007年2月20日に死亡51例を含む114例が、タンザニアでは2007年1月13日～2007年5月8日に死亡117例を含む290例が報告された。ヒトへのRVF伝播の最も重要な暴露因子はウイルス血症の動物(ヒツジ、ヤギ、ウシ、ラクダ)の血液および体液との接触であった。
365	ウイルス性脳炎	Neurology 2007; 69: 156-165	同種造血幹細胞移植(HSCT)後に急性大脳辺縁系脳炎を発症した患者9名の臨床、EEG、MRI、ならびに臨床検査特性を調べた。患者は、順行性健忘、不適切な抗利尿ホルモン分泌症候群、軽度CSF多球症、一時的なEEG異常を特徴とした。MRIでは、T2、FLAIR、DWI画像にて、鉤、扁桃核、内側嗅頭、海馬領域内に高信号域を認めた。PCRを用いた初回腰椎穿刺CSFの検査では9名中6名がHHV6陽性であり、同脳炎はHHV6と関連がある可能性が示唆された。
366	肝炎	Med Mol Morphol 2007; 40: 23-28	ALTが高く、HCV抗体とB型肝炎表面抗原が陰性である供血者からの血漿検体中のウイルス様粒子(VLPs)を視覚的に捉えようと試み、また、このVLPsと非経口的に感染するGBV-C/HGVの遺伝子との関係を探った。その結果、循環血液中のVLPsの検出率は、有意にALTレベル上昇と関係(P<0.001)していたが、VLPsを含む血漿のいずれにも、GBV-C/HGV RNAは検出されなかった。電子顕微鏡で球状のVLPsが確認され、それらが非B非C型肝炎に関係していることが示唆された。
367	寄生虫感染	Int J Med Microbiol 2007; 297: 197-204	ドイツにおけるヒトバベシア症の初めての症例を報告する。患者は結節性リンパ球性ホジキンリンパ腫が再発し、脾臓摘出されたドイツ人の63歳男性で、リツキシマブ投与後、貧血とヘモグロビン尿による暗色尿のため入院した。末梢血塗抹標本で梨状の寄生虫赤血球封入体が確認されバベシア症と推定され、Babesia特異的18S rDNA PCRによって確認された。シーケンス分析によりEU1と99.7%の相同性があり、EU3と名づけられた。寄生虫が消えるまでにはatovaquoneによる長期治療を要した。
368	寄生虫感染	第66回日本寄生虫学会東日本支部大会(2006.10.21) 一般講演21	20頭のリスザルを飼育する日本国内A施設において死亡したリスザル11頭を病理学的に検索したところ、4頭の雄にEncephalitozoon cuniculi原虫が確認された。また輸入直後サル14頭中1頭に原虫が確認された。国内15施設の266頭の血清を調べたところ、9施設で抗体陽性サルが確認され、陽性率は14.3～100.0%であった。輸入直後の93頭中5頭(5.4%)が抗体陽性であった。国内リスザル施設に予想以上にE. cuniculiが浸淫していた。
369	狂犬病	ProMED-mail20061118.3303	2006年11月17日、京都府の保健所は、京都市の60歳代の男性がフィリピンで犬にかまれ、帰国後に狂犬病を発症して死亡したと発表した。厚労省によると、日本人が国内で狂犬病を発症したのは36年ぶりである。厚労省によると、男性はフィリピン滞在中の8月末に野良犬にかまれ、11月1日に帰国した。9日に風邪のような症状で京都市内の病院を受診した。その後、幻覚症状、水や風を怖がるなど狂犬病特有の症状を発症した。国立感染症研究所が調べたところ、男性の唾液から狂犬病ウイルスが検出された。
370	狂犬病	ProMED-mail20070204.0449	中国Beijing市保健局は2007年2月2日に、BeijingのDashing地区の農業労働者が狂犬病で死亡したことを発表した。本症例はBeijingにおいて2007年に報告された初めての狂犬病症例である。2007年1月初めに、この農業労働者は野良犬(シェパードの子犬)を発見し、捕獲中に指を咬まれた。咬まれてから約4週間後の1月30日に咬まれた部位に不快感を感じ、翌日の1月31日、狂犬病疑いと診断された。同日、典型的な狂犬病症状を呈し、2月2日に死亡した。
371	狂犬病	ProMED-mail20070305.0782	中国Hunan省では2007年最初の2ヶ月で61人が狂犬病で死亡した。同省では2006年には443人が狂犬病で死亡した。狂犬病は昨年は中国で最も死亡者の多い感染症である。ワクチンを接種していないイヌは処分すべきであるとしている。
372	狂犬病	ProMED-mail20070323.1011	カナダで、公衆衛生当局はWoolwich Townshipにおいて動物4例(ウシ2頭、ウマ1頭、スカunk1匹)が検査で狂犬病陽性であったことを確認した。これらの動物は全て処分された。6人が感染した家畜に接触したおそれがあり、狂犬病ワクチンで治療されている。このアウトブレイクの原因は狂犬病のスカunkである。
373	狂犬病	ProMED-mail20070612.1917	2007年5月の中国における狂犬病による死亡者は201例で、致死的な感染症の中で最も死亡例が多かった。結核が第一位になった3月を除いて、最近13ヶ月間は狂犬病による死亡者数がトップである。

No	感染症(PT)	出典	概要
374	狂犬病	ProMED-mail20070725.2390	2007年7月上旬に、中国Beijingで男性1例が狂犬病の流行による犠牲者となった。中国では狂犬病が最も致死的な感染症であり、毎月200人以上が狂犬病により死亡している。中国では1996年の狂犬病による死亡数は163人であったが、2006年は3215人であった。
375	狂犬病	ProMED-mail20071030.3515	米国Virginia州Hanover Countyでは2007年になってから今までに、29例の狂犬病確定症例が確認され、2006年度の2倍以上である。うち2例はネコ、ウシであった。原因の一つとして、動物の生息地の近くにヒトが住むようになったことを挙げている。
376	狂犬病	YOMIURI ONLINE (2006年11月17日 読売新聞)	2006年11月16日、厚生労働省は、京都市の60歳代の男性がフィリピンで犬にかまれ、帰国後に狂犬病を発症したと発表した。厚生労働省によると、日本人が国内で狂犬病を発症したのは36年ぶりである。男性はフィリピン滞在中の8月末に野良犬にかまれ、11月1日に帰国した。9日に風邪のような症状で京都市内の病院を受診した。その後、幻覚症状、水や風を怖がるなど狂犬病特有の症状を発症した。国立感染症研究所が調べたところ、男性の唾液から狂犬病ウイルスが検出された。
377	狂犬病	YOMIURI ONLINE (2006年11月22日 読売新聞)	2006年11月22日、厚生労働省は、フィリピンで犬にかまれた横浜市の60歳代の男性が狂犬病を発症したと発表した。男性は重体。今月17日には、やはり、フィリピンで犬にかまれた京都市の男性が、国内では36年ぶりに狂犬病で死亡している。同省では「海外で犬などにかまれたら、速やかにワクチン接種をしてほしい」と呼びかけている。フィリピンでは年間250人前後が発症。WHOの推計では、狂犬病による死者は世界で年間5万5000人に上り、インド、中国などで特に多い。
378	結核	Emerg Infect Dis 2007; 13: 380-387	第二選択抗結核剤6クラスのうち3つ以上に耐性を示す多剤耐性結核を広範囲薬剤耐性結核(XDR TB)と定義し、2000年～2004年のSupranational Reference Laboratoriesのネットワークを調査した。48カ国からのMycobacterium tuberculosis分離株17,690のデータが提供され、多剤耐性分離株3,520のうち、347(9.9%)がXDR TBであった。
379	結核	NIKKEI NET いきいき健康 2006年12月5日	既存の治療薬がほとんど効かず、世界保健機関(WHO)が警戒を呼び掛けている「超多剤耐性」の結核菌が、国内でも入院患者の0.5%から検出されたことが、結核研究所の調査で明らかになった。2002年6月から11月にかけて国内99の結核治療施設の入院患者3122人から採取した結核菌を分析した結果である。検出例の半数は薬の服薬歴がなかったことから、他の患者から感染した可能性が高い。
380	結核	ProMED-mail20061009.2896	2004年後半に英国Birmingham近くのナイトクラブにいた6人がウシ結核に感染した。アウトブレイク源として1名が特定され、感染した女性1名が死亡した。これはここ数十年で初めての英国におけるウシ結核のヒトヒト伝播の報告であり、ウシにおける感染率の増加と一致している。英国のウシのほぼ1%は結核のキャリアであると思われる。今回の感染者にはHIV陽性者や同化ステロイド使用者が含まれ、易感染者であったと考えられた。
381	結核	ProMED-mail20061101.3131	2006年11月1日、米国ミネソタ州動物保健局は、同州で7番目の群れでウシ結核が発見されたと発表した。Beltrami郡のウシ1頭がウシ結核であることが確認された。感染したウシの群れから1マイル以内でハンターによって殺されたシカの内、2頭が検査でウシ結核陽性であった。
382	結核	ProMED-mail20070206.0470	1974年以来初めて、コロラド州でウシ結核症例1頭が報告された。そのウシはTexasの食品加工施設に売られていた。結核は死体の日常的検査中に肺で発見された。そのウシの肉は出荷してはいない。ウシ約660頭の検査が行われた。
383	結核	ProMED-mail20070306.0787	米国ニューメキシコ州Edd郡でウシ結核の確定症例が報告された。感染した乳牛は屠殺場で行われる日常的検査で発見された。また、同州北東部のウシの群れが結核に暴露した可能性のため監視下に置かれている。
384	結核	ProMED-mail20070501.1420	2007年4月27日、米国Oklahoma州Cimarron郡の食用ウシ1100頭の群における結核感染が確認された。群全体の検査でさらに感染した1頭が発見され、この雌牛は7～10年間その群れで飼育されていたと思われる。近隣の群れを検査する予定である。

No	感染症(PT)	出典	概要
385	結核	ProMED-mail20070619.1980	米国New Mexico州Curry郡のウシの群れにおいて、ウシ結核が検出されたと、州当局が2007年6月14日に発表した。群れの正確な規模は不明であるが、少なくとも24頭である。
386	結核	ProMED-mail20070728.2430	中国当局は飛行禁止令を無視した台湾の結核患者2人を突き止めた。台湾CDCは2007年7月28日に発表した。多剤耐性結核の55歳男性と通常の結核である57歳の妻は、2007年7月25日に台湾Kaohsiungから香港へ飛行機で移動し、それから中国Nanjing行きの飛行機に乗った。当局はこの夫婦と機内で彼らの近くに座った乗客を追跡した。この夫婦はJiangsu東部で2007年7月27日に発見され、病院へ移された。
387	結核	ProMED-mail20070817.2690	これまでに動物2例においてウシ結核陽性が発見された調査の一部として、米国Colorado州の雄牛がウシ結核のキャリアであるかどうか決定するための死体解剖が実施された。試験は来週(2007年8月20-24日)に完了する予定である。このウシは陽性であった他のウシとは異なる群れで発見された。
388	口蹄疫	China View 2007年4月25日	ベトナム北部のThai Nguyen 省とQuang Ninh 省において口蹄疫が拡大している。Thai Nguyen 省のDai Tu 地区において4月12日から口蹄疫が発症しており、6頭のウシと水牛、14頭のブタが影響を受けた。さらに、Quang Ninh 省のBa Che とTien Yen の2地域は4月5日から、27頭のウシと水牛、14頭のブタが影響を受けた。現在、口蹄疫は5つの省の12地域で拡大している。
389	口蹄疫	OIE 2007年3月15日、OIE Foot and mouth disease 2007年3月7日	朝鮮民主主義人民共和国政府からの要請を受け、FAOとOIEは1960年以来、同国で初めて発生した口蹄疫を調査するために調査団を派遣する。2007年3月7日にOIEが北朝鮮から受け取った報告によると、2007年1月10日に口蹄疫(セロタイプ O型)が発生した。ウシにおいて、疑い例466例、確定例431例、処分486例、ブタにおいて、疑い例2630例、処分2630例である。抗生物質による治療がされた。またワクチン接種が計画されている。
390	口蹄疫	OIE Disease Information 2006年11月16日、2007年1月19日、2007年1月30日、2007年2月2日、2007年2月15日、2007年2月28日	中国における口蹄疫(セロタイプ アジア1)の発生は2006年10月17日から11月16日にかけてChongqing 省Wanzhou郡でウシ疑い例13例、症例3例、処分13例、ブタ疑い例72例、処分72例、Gansu省Yongdeng郡でウシ疑い例181例、症例9例、処分181例であった。その後2007年2月28日までに、Gansu省Doucheng、Xinjiang省Xinhe、Gansu省Jintai、Qinghai省DatongおよびHuangyuanで家畜における感染が確認された。
391	口蹄疫	OIE Foot and mouth disease 2007年2月5日	エクアドルの農場の家畜で2007年1月28日に口蹄疫(セロタイプ O型)が確認された。ブタにおいて、疑い例120例、症例5例、死亡例1例、ウシにおいて、疑い例26例、ヤギにおいて、疑い例10例である。感染源は不明である。新規のアウトブレイクは確認されていない。
392	口蹄疫	Oie http://www.oie.int/wahidprod/public.php?page=weekly_report_index&admin=0	2007年3月9日、エクアドルのImbabura 県Ibarraにおいて、口蹄疫ウイルスO型のアウトブレイクが発生した。都市部の屠殺場において、市場出荷される予定であった様々な動物が影響を受けた。ブタは疑い例63頭、確定例4頭で、63頭が屠殺された。ウシは疑い例134頭で、134頭が屠殺された。2007年3月15日にはImbabura 県Antonio Anteで発生し、ブタ疑い例15頭、確定例6頭、死亡例4頭で、11頭が屠殺された。2007年6月6日にアウトブレイクは終了した。
393	口蹄疫	Oie http://www.oie.int/wahidprod/public.php?page=weekly_report_index&admin=0	中国国内において口蹄疫血清型Asia 1の感染が拡大しつづけている。発生日2007年1月15日、確定日2007年1月17日、前回の発生2006年11月。2007年5月12日、Gansu省YuzhongのHongliugouにおいて、ウシ39頭が疑い例、10頭が確定例で、39頭が処分された。さらにブタは32頭が疑い例で、32頭が処分された。
394	口蹄疫	Oie http://www.oie.int/wahidprod/public.php?page=weekly_report_index&admin=0 Thanh Nien 2007年7月4日、2007年7月6日	ベトナムで2007年6月11日に口蹄疫血清型Asia 1が発生し、6月13日に確定された。Quang Tri 省で15のアウトブレイクが発生し、合計でウシ477頭が疑い例、373頭が確定例で、375頭が処分された。ブタは11頭が疑い例、9頭が確定例で、9頭が処分された。
395	細菌感染	ABC Newsletter 2007年4月13日 21ページ	2004年度から2006年度にかけて米国食品医薬品局(FDA)に報告された輸血関連副作用による死亡症例数である。3年間の合計は219例で、内訳はTRALI86例(39.3%)、その他の副作用(ABO不適合以外の溶血反応、輸血関連心過負荷、細菌感染、アナフィラキシーなど)67例(30.6%)、細菌感染20例(9.1%)、ABO不適合による溶血反応15例(6.8%)、輸血が原因である可能性が否定できない症例31例(14.2%)となっている。